祭事終幕のご挨拶

玉蓮山真成寺開創五〇〇年祭は、皆様のご支援ご協力のお陰様をもちまして無事に幕を閉じることができました事を、ここにご報告させて頂きます。賑々しくも厳粛な、時間と空間と魂の鼓動が交じり合った、ここにしかない素晴らしい祭事となりました。関係各位の全ての皆様方、本当にありがとうございました。

県内外からも本当に多くの方々に足を運んで頂き、皆様と共に五〇〇年の節目を祝えたことが何より嬉しく、有り難く、感謝の気持ちで一杯です。

五〇〇年間ずっと見守り続けてこられた龍神様は、『記念本祭』当日、まさにお出ましになられました。祭事に関わられた全ての皆様に分かる形で・・・。不思議な現象の数々、イレギュラーな日程の中、最高の形を創出して下さる龍神様に感涙を止めることができませんでした。

受け継ごうとする者。受け継がせようとする者。過去・現在・未来へと紡がれる新時代の脈動。

「ご縁」というのは不思議なものです。「ご縁」というのは人知では到底計り知れないものです。

神仏様に選ばれたゲストの皆様方、また檀信徒の皆様方、全ての皆様方が一人でも欠けていたら、この度の五〇〇年祭は完遂成就することはなかったでしょう。これまで脈々と受け継がれてきた五〇〇年。そして、これから受け継いでいく五〇〇年。受け継ごうとする者。受け継がせようとする者。この忘れられない貴重な五〇〇年の節目を新たなスタートと位置づけ、新しい歴史に向かい檀信徒の皆様と共に、地域社会の一役として寺門が興隆すべく、今後益々の精進をお誓い申し上げ、御礼のご挨拶に代えさせて頂きます。

九拝

●【お寺は地域社会の公共財】

『真成寺開創五〇〇年祭』のテーマを、【慈しみ・笑み・和み・過現未（かげんみ）】とし、過去から現在、そして未来へと紡がれる時間と空間の中で、信徒未信徒老若男女を問わず集うお寺を目指す真成寺の思いが溢れています。お寺は本来、地域コミュニティの場であり、心の軸を正常に戻せる地域に開かれたランドマークでなければいけません。そもそもお寺は個人の持ち物ではありません。檀信徒をはじめ地域の方々に、公共財としてのお寺をもっと活用して頂きたいと思っています。開創五〇〇年祭を機に、今までお寺に足を運んだ事の無い人が、足を運ぶ切っ掛けになってほしいし、お寺という空間独特の「慈しみ・笑み・和み」に触れて頂く事によって、各自の中に具わっている仏種が育ってほしいと期待もしています。

●【五〇〇年祭を振り返る】

富山県魚津市にある日蓮宗玉蓮山真成寺（にちれんしゅうぎょくれんざんしんじょうじ）は、永正十四（１５１７）年の開山で、本年開創五〇〇年という大きな節目を迎えた古刹です。

谷川寛俊（真成寺三十五世住職）は、開創五〇〇年事業の一環として平成12年に本堂改修・庫裡新築。平成24年に三十番神勧請。平成27年に本堂屋根銅板葺き替え。平成28年に「永代供養墓久遠廟（くおんびょう）」建立など、伽藍や庫裏の整備に着手してきました。

去る仲秋１０月２８日・２９日の『事前祭』を皮切りに、１１月３日の『前夜祭』、４日の『記念本祭』と延べ４日間に亘る記念祭を賑々しく、かつ厳粛に開催し、檀信徒ら約１５００人が参詣し異体同心にお題目を唱和した。

『**楽音祭**』での熱量や、時間と空間をお伝えする言葉を未だ見つける事ができておりません。緊張感、躍動感、親近感、期待感、安堵感、幸福感等々と、様々な感情が揺さぶられました。当然、主催者側の意図すること、仕掛けることがありますが、それらを遥かに凌駕するものとなりました。終演後、涙を流されながら合掌される方々の姿も多く見受けられました。

※楽音とは・・・音楽を構成する「素材の音」の意味です。この世界は一人一人の人間から成り立っています。地域、年齢、性別、職業はそれぞれ違えども、一人一人は素晴らしいものを持っており、掛け替えのない存在です。それらが集まり、不協和音ではなく、綺麗な和音（和平）が奏でられる世界になってほしいという想いを込めて『楽音祭』と命名しました。

『**ひとり芝居「蜃気楼」**』では舞台横部まで観客の方々に座って頂くという大入りで、魚津市が生んだ怪優・佐伯新さんの世界を堪能させて頂きました。舞台となっている場所が、佐伯さんの表情や言葉一つで様々な景色に変わっていく様に誰しもが釘付けとなっておりました。魚津市は蜃気楼の名所として全国でも有名な場所です。

自然現象の一つなのですが、芝居を観覧しながら、今日もどこかで、色んな場所で、色んな人達がそれぞれの人生模様を描いているのだろうなぁ・・・と、儚い蜃気楼と重ね合わせ、感慨深くなりました。一人一人の中にある『過現未（かげんみ）』を垣間見させて頂きました。

『記念寄席』・『講談「日蓮聖人御一代記」』・『アレマー玉井さんのマジックショー』は個人的には非常に勉強になりました。

僧侶のお説教とは噺・語る・説くという意味では違いますが、臨場感を出し、目の前の聴衆をいかに引き付け、いかに納得させるか。色の違う一流の皆様を目の前で、直接肌で感じさせて頂けたことは貴重な時間でした。聴衆の層も入れ代わり立ち替わり異なりましたが、本堂内が大賑わいで神仏様もお喜びになっておられたのではないかと思います。前夜祭の最後を締めくくったのが『奉納舞踏&音楽』でした。元劇団四季トップスター2人による舞台『天音（あまおと）』。五〇〇年という歴史を感じ考えさせる曲目を探している時に聴いた「天音」は、まさに全身に稲妻が走る感動を覚えた曲でした。私たっての願いでもあった『天音』のコラボレーションは、本堂内が感涙に包まれた素晴らしい『前夜祭』の締めくくりとなりました。

他に『タブラボンゴのワークショップ&発表会』・『ママスキー主催のワークショップ』など、親子連れの参詣者も多くみられ大盛況でした。

そして迎えた『記念本祭』は大雨に見舞われました。雨風を司るのは龍神様。真成寺本堂には五〇〇年間ずっと見守り続けてこられた龍神様が棲まわれておられます。五〇〇年祭の会期中、私の目の前に「龍神様」が3度も、その姿を現されたのです。この話は改めて場を設けてお話しさせて頂ければと思います。さて、そんな中で日程が大幅に変更。イレギュラーな流れの中で稚児に参加の関係者や、境内で出店して頂いていた楽市楽座の皆様方、駐車場整理に出向して下さっていた檀信徒スタッフの皆様、参詣する予定だった檀信徒の皆様方には、大変な思いをさせてしまい本当に申し訳なかったと思っていますし、メインストリートをパレードできなかった事への後悔は尽きません。ただ、真成寺の五〇〇年祭という視点から見れば、こんな日本昔話のような偶然と、龍神様が顕現なされた事実は、忘れる事のできない寺歴の一ページに刻まれました。おそらく日時を変更しても、龍神様の歓喜の風雨が吹き荒れたのではないかと思います。そんな『記念本祭』では、「経本奉納式」が行われ、「如来寿量品」の一部「自我偈」を北海道から沖縄まで全国47都道府県の僧侶102人が、それぞれが担当した5文字を染筆し、順番に並べた他に類を見ない「自我偈」の経本500冊を御宝前に奉納した。経本の表題「法華経自我偈功徳聚（ほけきょうじがげくどくじゅう）」は全日本書道連盟の星弘道理事長に御染筆いただきました。また記念本祭では、臼と杵を2つずつ用意して餅つきが行われ、せり込み蝶六保存会の皆様による三味線、太鼓、唄の披露と共に、『源七さん』考案の餅つきが始まり、両親らに付き添われた稚児や檀信徒らが代わる代わる杵をふるい500回ついた。うちわ太鼓が打ち鳴らされる中、きらびやかな装いの稚児百人の行列が列をつくって本堂に参拝し、成長を祈念してお守りが授与された。奉納舞踏や奉納染筆などに先立ち、日蓮宗総本山身延山久遠寺から招聘された「身延山万灯講」が大小2つのまといを先頭に入堂。まといが勇壮に振られ、笛やかね、太鼓の賑やかな音が祝賀ムードを盛り上げて下さいました。本堂内外に結集した檀信徒らが読経する中、開創五百年祭が無事に幕を閉じることができました。

合掌　副住職　谷川寛敬

ラニ・フラ・ホア

今年の踊り収めとなるイベントのご案内です

「Aloha Fusion 2017」

富山県内で活躍するバンドさんとフラ団体のコラボがロービーで開催されます。バンドさんは、フラ曲初挑戦の方々が、ほとんど、楽しいステージになりそうです。

ホールでは、CDで踊ります。

場所・・・高岡文化ホール
日時・・・12月10日（日）
ロビー・・・２：４０～
ホール・・・３：３０～